

環境

環境に関する基本的な考え方

オリンパスでは、製品ライフサイクル全体における環境負荷低減を重要課題と位置づけており、事業活動のあらゆる場面において環境と経済を両立した活動に積極的に取り組んでいます。

オリンパスグループ環境方針

オリンパスグループは、経営理念に掲げている「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」をすべての活動の基本思想としています。当社はこの基本思想のもと、人々の安全・健康とそれを支える自然の恵みを尊重し、製品・サービス、あらゆる事業活動において環境との調和と、経済を両立した取り組みを通じて、持続的発展が可能な社会と健全な環境の実現に貢献します。

- 1. 全員参加:** 従業員一人ひとりが環境活動に対する理解を深め、地域特性を考慮した環境活動に全員参加で取り組みます。
- 2. 環境経営の推進:** グローバルでの体制と仕組みを維持し、環境活動を継続的に改善します。
- 3. 法規制・社会規範の遵守:** 環境に関する法令、ステークホルダーとの合意事項や自主基準を確実に遵守します。
- 4. 環境負荷の低減:** 汚染の予防、持続的な資源の利用、気候変動の緩和と適応、生物多様性の保護といった環境課題の解決に向けて、製品・サービス、事業活動を通じて環境負荷を削減します。
- 5. 環境と調和した技術の開発:** 環境保全に資する技術を開発し、その成果をものづくりのプロセスや製品・サービスに活かしていきます。
- 6. 環境コミュニケーションの重視:** 環境活動の社内外への情報発信を積極的に進め、ステークホルダーとの相互理解に努めます。

環境リスクマネジメント

製品に含有される化学物質や生産拠点の排水に関する法規制違反、土壌・地下水汚染は、操業停止や原状回復費用の発生、企業評価の低下など、当社の経営に影響を及ぼす重要な環境リスクです。そのため、法規制対応のための規程類の整備と維持、環境管理責任者や推進者への教育、現地運用のモニタリングと改善を実施し、環境リスクの低減に取り組んでいます。

気候変動は、地球温暖化の進行による異常気象の頻発、「パリ協定」に端を発した国際社会からの温暖化防止への要求強化など、事業活動に影響を及ぼす重要な環境課題と認識しています。炭素税・排出権取引や各国のCO₂削減規制の強化による事業コストの増加、台風や洪水等の自然災害の規模拡大によるサプライチェーンの断絶等が事業継続のリスクにつな

がると考えており、対策として、エネルギー効率の改善を目標に掲げての活動、自然エネルギーの導入拡大、サプライヤーの多様化等の対策を実施しています。

また、世界的に関心の高い水リスクについては、主要な開発・生産拠点に対して、世界資源研究所(WRI)の水リスクの評価ツール(Aqueduct)や防災マップ等を使用し、「物理的な水ストレス」「水資源に関する法規制リスク」等の評価を行い、水リスクが著しく高い地域に立地する拠点が無いことを確認しています。事業活動に与える影響は小さいものの、水が豊富な場所への事業拠点の設置、事業活動における水使用量の削減、排水設備の管理者の設置ならびに定期的な排水測定等を実施しています。

主な環境活動における目標と施策・実績

2019年3月期目標	主な施策	2019年3月期実績	2020年3月期目標
<ul style="list-style-type: none"> エネルギー原単位: 5.9%以上改善 (対2013年3月期) 再生可能エネルギーの使用量拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 製造改善活動の継続実施 省エネ型設備の導入 消灯、空調温度調整など日常的な省エネ活動の継続実施 再生可能エネルギーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー原単位: 12.8%改善 (対2013年3月期) 再生可能エネルギー使用量: 17,239MWh (対2018年3月期比12%増加) 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー原単位: 2019年3月期比1%改善 再生可能エネルギーの使用量拡大
<ul style="list-style-type: none"> 水使用量原単位: 2018年3月期比改善 	<ul style="list-style-type: none"> 水使用工程の改善 設備点検での漏水対策などの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 水使用量原単位: 6.3%改善 (対2018年3月期) 	<ul style="list-style-type: none"> 水使用量原単位: 2019年3月期比改善
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物リサイクル率: 2018年3月期比改善 	<ul style="list-style-type: none"> 歩留まり改善 有機溶剤の再生利用 分別の徹底によるリサイクル化の推進 生分解性プラスチックの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物リサイクル率: 2018年3月期と同水準 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物リサイクル率: 2019年3月期比改善

WEB CSRデータブック: https://www.olympus.co.jp/csr/download/pdf/csr_db_2019.pdf#page=52

製品のライフサイクルアセスメント

オリンパスグループは、製品ライフサイクルの各段階(製品開発、調達、生産、物流、使用等)において、さまざまな環境配慮技術を取り入れています。また、製品を通じて環境課題の解決に貢献しています。

